

# 「生涯なんもしない相方」

—修正稿—

2025/12/19

しのめ ののの

〈人物表〉

坂井 光也

(35)

お笑い芸人

細川 正伸

(35)

坂井の相方

小平 平介

(38)

坂井と細川の芸人仲間

広野 慎太

(45)

坂井と細川のマネージャー

タクシー運転手

1.

## TV局・収録スタジオ（朝）

派手なセットが組まれたスタジオ。

バラエティ番組の収録が行われており、ひな壇に芸人やタレントたちが数人座っている。

彼らの視線の先には司会者。

坂井光也（35）、相方の細川正伸（35）と並んで座っている。

坂井、細川を指しながら声を張る。

坂井 「ほんとに相方が無能なんですよ。何にもしない。何にもできないんですよ」

司会 「ほんとに？ 坂井が厳しすぎるだけじゃないの？」

坂井 「ほんとですって。仕事の量も俺と全然違うし。レンタルなんもしない人の方がまだなんかしてますって」

司会 「って言われてるけど、どう？ 細川的には」

細川 「うーん……えっと……まあ、確かに……」

坂井 「ほらご覧の通り。返しの一つもろくにできない」  
スタジオで笑いが起きる。

坂井、大袈裟に呆れたような表情をキープ。

細川、眉間に皺を寄せている。

2.

## TV局・楽屋（昼）

収録を終えた芸人たち、楽屋に入ってくる。

数人の男性芸人の中に、坂井と細川も混じっている。

坂井、軽く息を吐き、そこから高速で着替え始める。

芸人仲間の小平平介（38）が声を掛けてくる。

小平 「この後飲むけど、来る？」

坂井 「昼間っから飲むなよ。俺、夜まで仕事」

小平 「流石だね。」（細川に向かって）細川も？」

離れた場所に着替えていた細川、

細川 「いや俺は空いてる」

小平 「さっすが細川。今日もノリノリだったしね」

坂井、着替えながらも咄嗟に反応する。

坂井 「いやどこがだよ。何一つ生み出してないだろ」

細川 「んーいや、まあ……」

坂井 「ほら。さつきと同じ弄りされてんのにまだ返し考えてねえの。てかずーっとそう。中学ん時からずっと」

小平 「とか言つて〜」

坂井 「いや、とか言つて〜とかは無い。からの〜？ は無い」

小平 「ですが〜？」

坂井 「今回に限り〜？ ではない。永遠に無価値。最初っから粗悪品」

小平、笑いながら離れていく。

高速で着替えを終えた坂井、だらだらと着替えている細川のもとへ。

坂井 「じゃあ俺いくわ。あんま飲むなよ。新ネタ入れとけよ」

細川、渋い表情で小さく頷く。

坂井 「え、なにその態度……本気でキレてる？」

細川 「別にキレてはないよ。早く行けよ」

坂井、細川の態度に眉をひそめつつ、楽屋を出る。

### 3. 別のTV局・収録スタジオ（昼）

坂井、別のスタジオでも熱心にトークをしている。

坂井 「ほんと使えないんすよアイツ。今度この番組で詰めてやってくださいよ。だってこないだの現場でも——」

### 4. 別のTV局・収録スタジオ（昼）

坂井、電気椅子で全力のリアクション。

坂井 「痛い痛い痛い痛い。何で俺がこんな目に遭わなきゃいけないんですか。こういうのは相方にやらせてくださいよ」

### 5. 別のTV局・収録スタジオ（夕）

坂井、情報系バラエティでスイーツを試食している。

坂井 「うわーこれは美味え。外はサクサク、中もサクサク——」

### 6. 別のTV局・関係者出入口（夜）

坂井、他のタレントに紛れてTV局から出てくる。

共演者1 「おつかれたー」

共演者2 「坂井さん、飲み行きます？」

坂井 「いやごめん無理だわ。明日5時起き」  
共演者2 「相変わらず忙しく。おつかれっすー」

坂井、賑やかに去っていく共演者たちを見送る。  
疲れた表情で息を吐き、足早にタクシーへ乗り込む。

## 7. タクシー内(夜)

坂井、バラエティ番組の台本を読み込んでいる。  
不意に電話が掛かってくる。

坂井、怪訝な表情を浮かべ、電話に出る。

坂井 「……お疲れ様ですー」

広野の声 「お疲れ。今大丈夫？」

坂井 「大丈夫ですけど……どうしたんすかこんな時間に」

広野の声 「坂井くん、あのさ……大変なことになった」

坂井 「え？」

## 8. 総合病院・個室(夜)

坂井と広野慎太(45)、足早に病室へ入る。

細川 「すんませえん」

坂井 「何やってんだよお前」

広野 「電気椅子のリアクションを練習してて、腰打ったらしい」

坂井 「はあ？ なんでそんなこと……飲み会は？」

細川 「行くのやめた」

坂井 「そんで練習してたの？」

細川 「うん。電気椅子と空気椅子の練習したら、ぐっちゃんに

なっちゃって。間違えてなんもないとこに座っちゃった」

坂井 「どういうミス？ どういう練習メニュー？」

広野 「大したことないらしいけど、一応しばらく入院かなって」

坂井、大きいため息。

坂井 「……てか新ネタは？ そっちの練習は？」

細川 「あっ、忘れてた」

坂井 「……」

## 9. TV局・楽屋(昼)

坂井、TV局のプロデューサーに頭を下げている。

坂井 「本当に申し訳ありません。今日は僕一人でお願いします」

#### 10. TV局・収録スタジオ（昼）

坂井、ひな壇に座って司会者とやり取りしている。

司会 「今日相方いないじゃん坂井。引退したんだっけ？」

坂井 「いやしてないすよ。まだ。怪我でねーすいませんほんと」と、困ったように笑いつつ、周囲に謝罪している。

#### 11. 地方のイベント会場・屋外ステージ脇（昼）

坂井、イベント前の会場で、依頼主に謝罪している。

坂井 「相方が療養中でした。僕一人できっちり漫談しますので」

#### 12. 別のTV局・収録スタジオ（昼）

坂井、ひな壇で細川の等身大パネルと並んでいる。

坂井 「もうこいつの方が役に立つかもしれない」

周囲、ウケている。

#### 13. ラジオブース（夜）

坂井と細川、ラジオを収録している。

部屋の隅に等身大パネルが置かれている。

坂井 「という訳で、2週間ぶりの登場です」

細川 「えーこの度は皆様、ご心配をお掛けし、申し訳ございませんでした」

坂井 「ほんとにな。どんだけ頭下げて回ったと思ってんだよ」

細川 「返す言葉もございません」

坂井 「いつもろくに返してねえだろ。大体何で怪我したんだよ」

細川 「それはちよつと、言えないんですけど……」

坂井 「電気椅子の練習してたんだろ。なにやってんだよマジで」

細川 「あつちよつと。影の努力をアピールするのはあんまり」

坂井 「かっこつけんな。練習すんなよ電気椅子を。大体お前み

たいなりアクション下手な奴に仕掛けられる訳ねーだろ」

細川 「だからこそ練習を……」

坂井 「それで怪我してりや世話ねーだろ。頼むー。なんもしないでくれー。暇だからって努力しないでくれー。余計な

「ことせず家でゴロゴロしといてくれー」

#### 14. ラジオブース（夜）

収録が終わり、オンエアランプが消えている。

細川、ぎこちなく立ち上がるうとする。

坂井、咄嗟に立ち上がって細川を補助する。

細川、申し訳なさそうな表情。

#### 15. タクシー乗り場（夜）

人気がない、深夜のタクシー乗り場。

坂井と細川、無言で立っている。

坂井はスマホを弄っている。

細川 「……ほんとに、すまんかった」

坂井 「いや別に良いよ」

坂井、全く気にしていない様子。

細川 「……そう言うと思った」

坂井 「なら謝んなよ」

細川 「でも流石にこれは」

坂井 「別に良いって」

細川 「……なんで？」

坂井、少し驚いた様子で細川を見る。

坂井 「なんでって、何が」

細川 「なんで怒らねえの？ 仕事にも穴開けたのに」

坂井 「怪我したんだからしゃーねーじゃん」

空車のタクシーが二人の近くに停まる。

二人、乗り込もうとしない。

細川 「お前おかしいって。人前ではめちやくちや俺のこと貶すくせに」

坂井 「そういう芸だろ。ただの」

細川 「そうだけど、裏でももうちよい言えよ」

坂井 「なんでだよ。なんで怒られたがってんだよ」

細川 「怒るべきところでは怒った方が良いって」

坂井 「やだよめんどくさい」

細川 「めんどくさいとか言うな。俺を諦めるな」

坂井 「別に諦めてねえって。なんで俺が怒られてんの」

タクシー運転手、怪訝な表情で二人を盗み見ている。

細川 「お前が甘すぎるからだろ。やばいつて俺のポンコツ具合」

坂井 「自分で言うなよ。悲しくねーのかお前」

細川 「だから俺だって電気椅子を……」

坂井 「え、待って。それで練習してたの？ コンビの為に？」

細川、しかめっ面で頷く。

坂井、ぽかんとした表情。

坂井 「……反抗期じゃなかったんかい」

細川 「反抗期？」

坂井 「なんかムカついてんのかなって」

細川 「は？ いや違うよ。なんか申し訳なくて」

坂井 「なんでだよ。できない、やらないのが仕事だろ。お前の」

細川 「そうだけど……それにしてもというか……」

坂井 「しょうがねえだろ。俺がお前のこと誘ったんだから」

細川 「……」

タクシー運転手、窓を開けて二人に声を掛ける。

運転手 「あのー……乗られますか」

坂井 「あ、すみません」

二人、タクシーに近づく。

細川 「……飲み行くか。久々に」

坂井 「やだよ気持ち悪い。俺明日4時起きだし」

細川 「早え……」

細川、ぎこちなく乗り込もうとする。

座席に座ろうとした瞬間、腰を押さえながら降りる。

細川 「いててて」

坂井 「え、大丈夫？」

細川 「……電気椅子」

と、タクシーの座席を指してニヤツと笑う。

坂井、思わず呆れたように笑う。

坂井 「いやなんも面白くねーから。紛らわしいことすんなって」

二人、小さく笑いながらタクシーへ乗り込む。

夜の街をタクシーが走り去る。

おわり